

立命館經濟學

第 36 卷 第 1 号

1987年4月

内 容

論 説

- 貨幣・貨幣資本・現実資本の運動法則……………小 牧 聖 徳 1
——最近日本資本主義の動向——
- 1880年代の階級構成 (1) ……………後 藤 靖 20
- 地域經濟をめぐる理論的諸問題……………杉 野 罔 明 63
- Natural Resources Evaluation and the
Labour Theory of Value ……………Stanislaw Sitnicki 96

研 究

- 資本の破壊と貨幣・信用恐慌……………竹 味 能 成 119

紹 介

- Richard F. Kahn『Keynes「一般理論」
への道程』(4)……………磯 部 智 也 133
- 学位論文審査報告…………… 161

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学 第35巻・第5号

関 彌三郎教授退任記念論文集の刊行にさいして	小 野 一 郎
プリントの統計学理論について	有 田 正 三
初期の「統計法」の一典型	浦 田 昌 計
——1897年のハンガリー統計局法——	
H. グローマンの統計方法論	長 屋 政 勝
線型回帰分析の推定誤差と係数の信頼性	稲 葉 和 夫
サービス経済論の系譜的展望	鈴 木 登
——その理論と計測をめぐる諸問題——	
経済発展論（上）	小 野 進
——A・ガーシェンクロンとA・マーシャル そして日本の経済発展への適用とその限界——	
ケインズ経済学における理論と政策	松 川 周 二
——その形成と展開についての覚書——	
ケインズの道徳哲学と賢人思想	大 西 広
——『若き日の信条』におけるケインズの「反省」——	
日本の統計と社会統計学	関 彌三郎

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第35巻・第6号

論 説

輸出・輸入物価に対する為替変動の

寄与度・寄与率	関 彌三郎
経済発展論（下）	小 野 進
——A・ガーシェンクロンとA・マーシャル そして日本の経済発展への適用とその限界——	
外国為替について	岩 田 勝 雄

紹 介

Richard F. Kahn 『Keynes 「一般理論」

への道程』(3)	磯 部 智 也
----------------	---------

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会